

平成19年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	ユビキチン系による蛋白質品質管理とその破綻	研究代表者名	岩井 一宏
-------	-----------------------	--------	-------

※該当箇所 () に○等の印を付け、意見を記入してください。

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア () 予定以上に達成した
- イ (○) 概ね予定どおり達成した
- ウ () 一部不十分である
- エ () 達成していない

意見：
鉄による酸化経路とユビキチン系のクロストークなど独創的研究を展開した。他方、当初予想した特異的ユビキチンリガーゼの同定には至らなかった。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア () 十分に貢献できた
- イ (○) 概ね貢献できた
- ウ () 一部貢献できた
- エ () 貢献できていない

意見：
ポリユビキチンを形成する点ではユニークな研究を展開した。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア () 非常に高く評価できる
- イ (○) 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
鉄の集積と神経変成との関係など、ユニークで学術創成に相応しい研究と思われる。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア () 非常に高く評価できる
- イ (○) 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
国際誌への発表や、国際会議での発表など積極的に進めた。

4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A+	期待以上の進展があった
○	A	期待どおり進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

鉄の酸化とユビキチン系のクロストークを明らかにし、さらにポリユビキチン化酵素を同定するなど、独創的かつ着実な成果を挙げたと評価できる。他方、当初目的とした「酸化タンパクを特異的に認識するユビキチンリガーゼ」というテーマに関しては、不十分で必ずしも整合性のとれていない結果も見られる。この点について、厳しい意見があったことを付記したい。全体としては学術創成の内容に相応しい展開をしており、今後の発展を期待したい。